

第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に参加しました



2025年6月20日～6月22日に札幌コンベンションセンターおよび札幌市産業振興センター（北海道札幌市）において、第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会が開催されました。今回は“「そこ・そこ」のプライマリ・ケア”をテーマに、北海道という文化的・社会的背景を活かした様々なセッションが用意されました。

当講座からは学生セッションとして平山優太さん、姫路雪乃さん、内田一徹さんが4年次に行った約2カ月間の「研究室配属」の研究の成果について発表を行いました。平山さんは「大分県における救急受け入れ病院—人口重心間の距離と心疾患救急搬送時間との関連：地域相関研究」、姫路さんは「非びらん性胃食道逆流症（NERD）に関する生活習慣の検討」、内田さんは「外来を受診した不明熱の原因疾患と診断方法に関する観察研究」の演題名で発表いたしました。多くの発表の中で、うれしいことに姫路さんが優秀賞を獲得しました。姫路さん、おめでとうございます。みなさん堂々として、非常に素晴らしい発表でした。今後の益々のご活躍について祈念いたします。

3名を含め、大分大学から6名の学生が本学会学術大会に参加いたしました。学会に参加した学生方から感想をいただきましたので掲載いたします。これからも学生のみなさんがプライマリ・ケア、総合診療、家庭医療に興味を持ってくださるよう、私たちも魅力を発信していこうと思います。

Aさん 5年生

自分が気になっていた大分県の医療資源偏在状況やそれによる搬送時間の事について、他県の先生の意見を取り入れながらより多角的に考えることができ、とても良い経験になりました。今回のような大舞台で発表させていただき、非常に光栄です。

Bさん 5年生

今回初めての学会発表を経験し、他の学生の斬新なアイデアに刺激を受け、自身の視野が広がりました。また、総合診療科の先生方の丁寧なご指導のおかげで優秀賞を獲得できたことで、自信につながりました。この貴重な経験を糧に、今後も精進してまいります。

Cさん 5年生

学会での発表は想像以上にスムーズに進み、これからの活動への自信に繋がりました。他大学の方々はより丁寧な発表で、非常に勉強になりました。この度は本学会に参加させていただき、本当にありがとうございました。

Dさん 5年生

3回目の現地参加で、初めてポスター発表を行いました。全国の学生団体の興味深い活動に刺激を受け、OICOSもより継続的に、地域と連携しながら発展させていきたいと感じました。また、学会を通して総合診療の柔軟性とその必要性を改めて実感いたしました。

Eさん 5年生

先日初めて学会に参加し、同級生が自分の打ち込んだ研究について堂々と発表し聴衆を引き込む姿に感銘を受けました。自分も将来、今回発表された方々のように自信を持って発表したいと強く感じました。

Fさん 5年生

「ひよっこドクターのほけんしつ」の発表では、他大学の総合診療サークルの方々にたくさん声をかけていただき嬉しかったです。他の発表内容から自大学でも挑戦したい取り組みに出会い、刺激を受けました。

これからも当講座では学生、研修医も交えた研究、症例発表について力を入れ、後進の育成に努めて参ります。

文責：三浦真子